



を楽しめるようになってきているようです。

会員制ではないので、その日の調子で参加したりしなかったり…。そのゆるーい感じがちょうど良い、そんなサッカークラブです。

また、以前は一作業班に固定されていたピアノがホールに設置されました。作業班にあると音が苦手な仲間もいるので、弾くタイミングも考えなければいけなかったのですが、誰でもいつでも自由に演奏できるようになりました。とはいえ基本的には仕事中には演奏しないので、昼休みの後が主な活躍の時間。

近所の図書館で貰ってきた楽譜を見ながら職員との連弾を楽しむ姿もあり、普段はあまり良い交流のできていない仲間に対しても「〇〇さんが好きな曲を練習するんだ」と張り切っている様子が見られています。聴いている仲間が身体を揺らしたり、

演奏を聴きながらちよつとお茶を楽しむ仲間がいたり、仲間同士で緩やかに影響をし合っているようです。

活動内容の変化

移転を終えて全てが変化したわけではなく、変わらないところもあります。「環境の大きな変化に対して、変わらなないことがあることを大切に」という考えから、意図的に活動の内容は変りないようになっています。これまでと同じ仲間や職員と、同じ班で日課の流れも基本的に同じにし、仕事を変わらなく取り組めることを大切にしています。

それでも活動場所の変化から細かな変化はあります。班の中にちよつとしたくつろぎスペースをとれるようになり、余裕を持った仕事ができるようになり、集中できない時は廊下で過ごす、集中する時は机に向かうなど、メリハリをつけた活動ができるようになっていきます。

また「お菓子作りの大宮太陽」でありながらも、作業スペースの確保の難しさや活動内容の煩雑さがあつたところに、洗い物などの設備が整ったことで、これまで大変だった片付けが楽になったなど、ゆとりがもてたことで、活動が充実している様子があります。

移転してあつたという間にもう半年、されどまだ半年でもあります。まだまだ新しくなった場所を活かしていないこともたくさんあることだと思います。広くなった中庭の有効活用などは仲間たちからも意見が出ており、ちよつとした家庭菜園から、夏にはパーベキューをしたりビニールプールをしたりと夢が広がっている様子です。

またコロナ禍もあり、長らく行えていなかったTidalcフェを、再開したいと思っています。今までにこ



わらず仲間も職員もみんなでアイデアを出し合い、新しい大宮太陽の家をアピールしていきたいと思っています。

新型コロナウイルスやインフルエンザの流行などもあり、この間できなかったことも沢山あります。これからも気をつけるところは気をつけつつ、活動を充実させていきたいと思っています。

これまで大宮太陽の家と交流の多くなかった皆さんも是非、新しくなった大宮太陽の家に遊びに来てくださいね。

大宮太陽の家職員 山田 千尋

これからの大宮太陽の家

全体を通して仲間の表情が明るくなりました。



おひさま通信

施設改善を終えて

* 大宮太陽の家 *

皆さんに支えられて9月に大宮太陽の家の移転をしてから、もうすぐ半年が経とうとしています。紆余曲折ありながらも無事に移転を終え、仲間たちや職員にとつての良い変化を日々感じています。

一緒に食べる昼食

大きく変わったことのひとつとして、ホールで皆一緒に食事をするようになりました。仕事は基本的に班ごと、食事も班で…と班を超えた交流がほぼ出来なかった環境から、違う班の仲間との会話を楽しみながらの食事が出来るようになりました。(感染症への不安もあるので、アクリル板越しではありますが)。これまで仕事机で食べていたことを思うと大きな変化だなと感じています。

また仲間同士だけでなく、普段な



かなか関われなない職員との交流を楽しんでいる様子もあります。「お茶入れて下さい！」なども、色々な職員に頼んでみるなど、いつもの班の職員ではない人との話のきっかけにもなっているようです。

近くにいることで、お互いの声に気になってしまふなどの場面もみられています。ですが苦手だからと接触しないような配慮をするのも違うと思うので、まだまだできる工夫を検討しながら、より良い食事場面を皆と作っていかれたらと思います。

距離を置いてひと呼吸できる

気持ちが落ち着かない、皆と一緒に過ごしたくない、そんな時に自分



から「ホールでゆつくりしてくるね」と、ホールにある小上がりで過ごすことも、選択肢に上がるようになりました。部屋から離れても、他班の仲間や職員の活動が何となく見え、色々な人に声を掛けられて、見守られながら過ごせる安心感もあるようで、不安な気持ちの切り替えもしやすくなったように思います。

これまでは狭い建物内で、仲間同士でぶつかることがあつても、離れることが出来ず、建物外や送迎車の中で職員と話したりせざるを得ないことも多々ありました。やむを得ない環境でしたが、「追い出されてしまった」感が強く、ゆつくり話をすることも難しく感じていました。

建物が広がったことで、物理的にも精神的にも仲間同士の距離感が保ちやすくなり、仲間にも余裕が生まれたようです。そのことで職員も

介入をしなければならぬ場面が減っており、職員の気持ちにも余裕が出てきています。



みんなで過ごす余暇時間

仕事や作業に関しては、それぞれの班での活動が主ではありますが、ホールや中庭などでの余暇活動が充実したのも大きな変化です。

移転から暫くして「おひさま通信 サッカークラブ」が発足しました。職員からサッカーボールの寄贈もあり、昼休みに広い中庭で、有志の仲間たちと職員で集まって、サッカーに興じています。

最初は男性メンバーだけで、活動もパス練習だけだったのが、次第に女性メンバーも増え、ドリブルなどの動きも含めて、ちゃんとサッカー